

すべての幼児が、保護者が、職員が、『元気いっぱい！笑顔いっぱい！』で『大好きな堀ノ内子供園』
教育ビジョン2022「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現をめざし、遊びの中の学びを中心とした質の高い教育保育を提供します

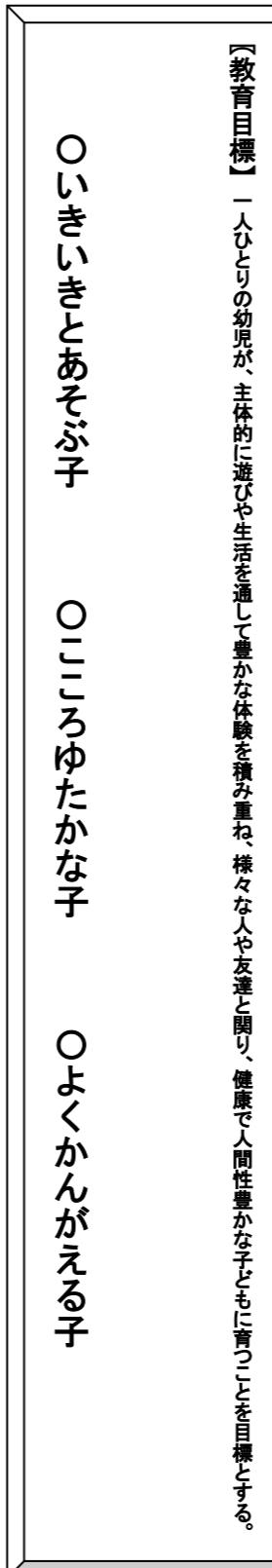
園長 大塚 玲華

【目指す子供園像】

- ①幼児の興味や関心に基づいた自発的な遊びを大切にするとともに、発達に応じた活動を計画的に取り入れていく。様々な体験を積み重ねることで、幼児の経験を増やし、遊びの幅を広げ、自らの遊びを豊かなものにしていく。
- ②進んで様々な活動に取り組むことで心や体を十分に動かしていく。多様な動きにも挑戦し楽しさを味わい、心と体の調和のとれた発達を促していく。
- ③園庭や近隣の豊かな自然にふれ、四季の変化を感じながら生命の不思議さや尊さを知り、遊びや生活を豊かにしていく。
- ④保育者との信頼関係を軸に安心して園生活を送り、学年を越えて、それぞれ個々の幼児がもつ特性や持ち味を生かしながら一人ひとりの豊かな育ちにつなげていく。また、様々な友達との関わりから相手の思いや気持ちに気づき受け止め、お互いを大切にする気持ちを育む。
- ⑤幼児期から小学校への学びの連続性を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして「幼保小の架け橋プログラム」等を見据え、「資質・能力」を育み小学校以降の教育基盤を培う。
- ⑥保護者や地域・近隣各種団体などの資源を積極的に活用し、地域ならではの体験や交流に参加し、幼児の心豊かな育ちにつなげる。
- ⑦職務の合理化やスリム化を図りながら、保育の質を維持し、職員同士の連携と協力を図りながら働き方の工夫を進める。ワークライフバランスの取れた働き方を目指す。

【教育目標を達成するための教育活動】

1. 興味関心に基づく直接体験を通した活動（自ら取り組む遊びを中心とした教育）
自然豊かな園庭を生かした遊びや活動。様々な教材や素材、用具等を利用した構成遊びや制作。社会性やコミュニケーション力、協調性など様々な力が身に付くごっこ的な遊びや活動、おにごっこ、運動遊び等。学級での活動。
2. 集団の中で人とつながり協同すると共に、規範意識や道徳性の芽生えを培う活動
自らの考えや思いを表現し、友達の様々な考えに触れながら協同して遊びや活動をつくりあげていく体験。学年を越えた交流と育ちあい。（誕生会、運動会、ごっこ活動、堀ノ内劇場、修了製作、当番活動等）
3. 健康な心と体を創る教育活動・安全教育
園庭やホールでの運動遊び、杉並体づくりキャラバン講師による様々な運動遊び等意図的・計画的な運動遊びや伝統文化との触れ合い体験
自分も相手も大切な心と身体をもつてることを生活や活動を通して学びあう（井村隊長と運動遊び・獅子舞・お茶会等）（水遊び、プール遊び等）
4. 地域との関わり合い、触れ合いを大切にした活動
(子育て支援事業) アイアイ（月1、2回）、子育て相談
(地域との連携) 中学生職場体験、なでしこフェスティバル参加、フラワージャングルの整備活用
5. 伝統行事活動:日本に古くから伝わる行事の由来を知り、制作や交流を楽しむ活動
こどもの日、七夕、獅子舞、節分、ひな祭り、お茶会、
6. 食材栽培・食育活動:季節の野菜を育て、様々な食べ物への興味関心をもてるようにし、進んで食べようとする気持ちを育てる。
・色々な野菜の栽培収穫し食する。
・カレーパーティー食材栽培活動や調理体験活動
7. 幼保小中の連携を図り、学びの基礎を培う活動
・大宮小学校との交流・連携教育や施設活用
・中学生による職場体験活動



【今年度の研究・課題】

○今年度 研究主題「いきいきと遊ぶ子をめざして」

- ・教育目標である「いきいきとあそぶ子」の具体的な姿の共通理解を図り、本園の考える「いきいきとあそぶ子」について整理するとともに、幼児理解を深め、めざす幼児の姿に向けて援助の在り方を探っていく。
- ・今年度は、「いきいきとあそぶ」幼児の姿を週案や幼児の実態の欄に整理し、一人ひとりの幼児の捉えや援助について省察していく。その際、保育者間での丁寧な話し合いを通して、多角的に幼児を理解していくことを大切にする。

【特別支援教育の推進・充実】

- ・幼児の的確な実態把握を行い、個別の教育指導計画を作成し、実態に即した活動や生活のありかたを見直し、誰もが学級の一員として安心し楽しく生活できるようにする。活動や行事の目的や内容については、全ての幼児が進んで参加していかれることを大切にする。
- ・関係諸機関との連携を深め、一人ひとりの幼児の特性に応じた指導に努める。
- ・学級の中で互いに仲間として相手を理解しようとする態度や相手の個性や特性を尊重した関わり方を知り、共に支え合って生活できるような学級経営に努める。
- ・園に関わる保護者の理解と協力を得て、全ての園児が安心して過ごし、遊びを十分に楽しめる適切な援助を行う努力をする。
- ・地域の子育てステーションとして、子育て相談や他機関への連携窓口の事業の充実を図る。

【情報の公開・発信】

- ・教育活動の様子をドキュメンテーション等用いて具体的に説明したり、キッズビュー配信を充実させたりする。保護者会のもち方を工夫して、教育・保育内容の園情報をできるだけ迅速に保護者や地域に公開する。

【子供園 自己評価の充実】

- ・保護者の評価を積極的に活用し、課題を明確にし、職員の意識改革を図りながら園運営の改善に努める。

【保護者から信頼される園となるために期待する保育者像】

- ・幼児と丁寧に向き合い、理解し、適切に指導援助をする。幼児の小さなつぶやきにも耳を傾け、幼児の気持ちに寄り添い、なぜ、どうしてと一緒に考えたり感じたりしながら幼児と関わる保育をめざす。
- ・保護者と幼児理解を共有し、共に育てていく意識のもと、園での様子や情報を発信したり、相談に対応したりする。
- ・幼児理解を深め、全員保育の学級経営や長時間保育充実のための指導や援助、環境構成に努め、『遊びの中の学び』を中心とした幼児一人一人の良さを生かした質の高い幼児教育を提供する。
- ・子どもに接する者として、人格の向上（礼儀や言葉使い、服装等を含め）に努める。
- ・心身ともに健康であるように努める。
- ・人権感覚を養い、法令や服務を遵守する。
- ・危機管理意識を常にもち、子ども、保護者、自分自身の安心安全を守る。
- ・職員自身の心と体の健康を大切にし、ワークライフバランスを考えた働き方を工夫する。